

(2)

M-0109

0113

系之政一
係後

昭和十三年一月二十三日

在波蘭酒匂大使宛 (アセキ) 一月二十三日

波蘭國「ルガオフ」ニ帝國領事館設置案ニ関スル件

客年貴電第一六號ニ関シ

「ルガオフ」ハ適當ノモノヲ出張セシムルコトハ機宜ノ措置ト認メラ

ルル處同地ニハ「ソ」聯領事館アリ故チ出張員ノ滞在及行動

ハ直ニ「ソ」側ノ注目スルトコロトナルヘギニモ鑑ミ御承知ノ通「ソ」

ケイトナル立場ニ在ル波蘭側ニ於テ之ヲ迷惑トスルカ如キコトハ

無カルヘギヤ然ルヘク御確ナノ上電報アリ度シ

外務省

極秘

電信課長

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

分 911.3.2.4.12

昭和13

五二一五

(暗)

ワルソー 二月廿三日午後發
本省 廿四日前着

廣田外務大臣

酒匂大使

第三三號、極秘、館長符號扱

貴電第七號ニ關シ(波蘭國「ルヴオフ」ニ帝國領事館設置案ニ關スル件)

館員ヲシテ東方局長「ジャジレンスキー」ニ就キ外務省側ノ内意ヲ質サシメタル處波蘭側トシテハ其ノ對蘇關係極メテ冷淡ナル爲何等蘇側ノ感觸ヲ考慮スル要ナク從テ我方ニ於テ出張員ヲ常駐セシムルモ波蘭側トシテ迷惑スルカ如キ事情ナキモ唯形式ノ問題トシテ大使館員ノ出張ハ當國ニ前例ナキ爲覺束ナク領事館員トシテナラハ差支

外務省

ナカルヘシ而シテ兩者ノ差異ハ外交官ノ特權ノ有無ニ在ル處關係方面トモ協議ノ上追テ確答致スヘシトノコトナリ
就テハ何レ確答ヲ得テ更ニ電報スヘキモ前記ノ次第ニ付此ノ際領事館ヲ置クヲ以テ最上ト信ス若シ經費等ノ點ヨリ右實現困難ナルニ於テハ當地ニ領事館ヲ置キ其ノ分館ヲ置クコト一案ナルヘク之亦不可能ナラハ出張員トスルノ外ナカルヘキ處假令出張員ヲ置クトスルモ御來示ノ如キ機微ナル對蘇關係殊ニ同地方カ蘇聯側ノ「ウクライナ」系波蘭人ニ對スル反波蘭工作ノ中心地タル事實並ニ言語ノ關係等ニ顧ミ充分強力ナル機構ト爲スヲ必要ト存ス(了)

外務省

M-0109

極秘

電信課長 森

大臣

次官

廣田

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調査 人事 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

分類 141.3.0.1-1-12

昭和13 六五五八 (暗)

ワルソー 三月八日後發
本省 九日前着

廣田外務大臣

酒匂大使

第四二號 館長符號扱

往電第三三號ニ關シ

先方係官ノ希望ニ依リ過日本使ヨリ外務次官ニ當國政府ノ意圖ヲ承知シ度キ旨申入レ置ケル處七日同次官ハ求ニ依リ往訪ノ本使ニ對シ當國政府トシテハ「ルボフ」ニ外交官ヲ常駐セシムルコトハ前例モナキニ依リ差控ヘラレ度キ意圖ナルモ領事館ノ開設ナラハ何等反對ナキハ勿論大ニ之ヲ歡迎ス但シ

(一)他國カ先例ト爲スコトヲ避ケ度キニ依リ大使館員カ領事又ハ領事

外務省

館員ヲ兼任セサル様取計ハレ度シ

(二)同地ハ「ウクタイナ」問題等ノ關係上極メテ機微ナル地位ニアルヲ以テ領事館開設ノ上ハ特ニ當國地方官憲ト常ニ密接ナル聯絡ヲ保タレ度ク地方官憲ニ於テ領事館ニ充分ノ便宜ヲ供與スヘキハ勿論ナリ

ト述ヘ本使ノ問ニ對シ蘇側カ如何ナル印象ヲ受クルヤ否ヤハ當國ノ關心ノ外ニアリト答ヘタリ依テ本使ハ右ノ旨政府ニ報告スヘク何分ノ指令ヲ受ケタル上更ニ御協議スヘント述ヘタルニ次官ハ領事館ノ開設ハ當國ノ大イニ歡迎スル所ナリト繰返シ成ルヘク速ニ右實現方切望スル次第故此ノ點モ政府ヘ傳ヘラレ度シト附言セリ(了)

外務省

電信課長

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和13 三五五九三 暗 本 省 十二月五日發 六日前着 歐

有田外務大臣 酒匂大使

第三八六號

往電第三八三號ニ關シ

後藤副領事ハ「リボフ」ニ於ケル仕事ノ關係上宴會費及機密費ヲ必要トスヘキニ付領事館開設ノ場合ニ準シタル金額年度末迄ノ分支出方御詮議ノ上結果何分ノ儀御同電アリタシ

外務省

電信課長

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 祕書官

寫送先

分類 M113.0.1-12

昭和14 一二〇八九 暗 本 省 四月廿日後發 廿一日前着 歐

有田外務大臣 酒匂大使

第一〇三號

「ルボフ」領事館新設ニ關シ

現下ノ機微ナル事情ニ鑑ミ至急開館スル方得策ト認メラルル處（英國ハ本年一月名譽領事ヲ廢シ正式領事ヲ任命セリ）何時頃開館ノ豫定ナリヤ折返シ御同電アリタシ（了）

外務省